

「百年萬保」

都立鷺宮高等学校 校長 山下 康弘

鷺宮高校は、明治45年に「東京府豊多摩郡立農業学校附設実業女学校」として中野駅南側にあった桃園町（現在のの中野三丁目）の地に開校しました。その後、幾多の遍歴を経て「東京府立高等家政女学校」として昭和13年に現在地である鷺宮三丁目（現在の若宮三丁目）に移転しました。昭和21年、最寄り駅である西武新宿線「都立家政駅」の名前の由来となった「東京都立中野高等家政女学校」に改称するなど、さらなる遍歴を経て現在の「東京都立鷺宮高等学校」に至り、今年度、創立113年目を迎えています。

私自身、鷺宮高校の校長として2年目を迎えたばかりですが、実のところ、本校への着任は2回目となります。東日本大震災が起きた翌月、平成23年の4月より3年間、副校長として鷺宮高校に勤務していました。当時、学校には標準服はありませんでしたが、制服はなく、私服で登校する生徒が大多数で、外見は現在のそれと異なっていました。本校生徒特有

の明るく優しい気質は、現在と変わらないものでした。

また、平成23年4月、鷺宮高校は校舎改築工事の真ただ中にあり、建てたばかりのプレハブ校舎での新年度のスタートとなりました。当時は震災の影響が色濃く、節電や防災への取り組みの徹底に加え、工事に必要な物資の供給遅れで工期が伸びたこともあり、思うような教育活動を望めるわけもなく、学校行事の開催等、施設面で制約もある中、その実施は困難を極めました。それでも、生徒や保護者から学校への不平不満を聞いたことはなく、皆それぞれに、思い思いに青春を謳歌してくれました。

加えて、その年から、震災対策への取り組みとして、災害時における避難場所の意義や高校生に求められる役割を学ばせることを目的に、全都立高校で宿泊防災訓練が始まりました。その実施の際、中野区の防災課や地域の方々に様々な御協力を

いただいたとともに、今なお避難所連絡会等で御支援いただいていることに、心より感謝しております。さらに、翌年の平成24年、本校は創立100年目を迎えました。次の100年、未来に向かって良き伝統が永久に引き継がれるよう、そのスローガンを「百年萬保」と定め、11月23日、当時、中野区のシンボルであった「中野サンプラザ」の大ホールを会場に記念式典を挙行しました。そして令和7年、現在の鷺宮高校も、創立100周年の時と変わらず、「挑戦」、「協調」、「信頼」、「創造」の四つを教育目標に、学習活動や部活動、学校行事を柱にして、主体性を持って行動できる、良識ある人材の育成に努めています。新しい校舎や施設の竣工後、制服の導入等がありました。現在の恵まれた環境の中で学ぶ生徒たちも、部活動や学校行事に取り組み、友情を育みながら、生き生きと学校生活を送っています。

今、都立高校は、生徒を選ぶ時代から中学生やその保護者に選ばれる時代へと転換し、それぞれが特色ある教育活動や強みを発信することで、生徒獲得に奔走しています。鷺宮高校も百年萬保を見据え、本校に学ぶ

令和6年度の第三回史跡めぐり

「川越市」を実施しました

前々日の雪の影響もなく、令和7年3月6日26名の参加者で実施しました。埼玉県川越市を目指して出発。川越市役所のバス乗降所には時間通りに到着、シルバー人材センターのガイドさんと合流し、川越城本丸御殿へ徒歩にて移動、風が強く肌寒かったです。

現在は本丸御殿の一部として玄

関・大広間・家老詰所を残すのみとなりましたが、日本国内でも本丸御殿が現存する例は極めてまれで、玄関に入ると廊下がぐると部屋を取り囲んでおり、部屋の装飾は質素ですが部屋を仕切る扉に描かれた杉戸